

第31号



2012.10月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyo.com>
編集 広報ボランティアグループ



熟したパッション
フルーツ

一石三鳥！ パッションフルーツのグリーンカーテン

今年の夏の暑い日差し、皆さんは何で防ぎましたか。「節電、節電」と騒がれる昨今、窓辺にゴーヤや朝顔を植えて、グリーンカーテンを作り、暑さを凌いだ家庭も多かったのではないのでしょうか。

城里町社会福祉協議会介護保険事業所（小勝）では今年、ちよつと変ったグリーンカーテンを試してみました。それは「パッションフルーツ」です。パッションフルーツは和名を「果物時計草」と言い、アメリカ大陸の亜熱帯地域原産で、トケイ草科の果物です。花芯は時計のように見える特徴があり、卵形の実を付けます。実は濃紫色で甘い香りがし、食べる事ができます。

事業所では5月に苗を植えて、利用者達が毎日水やりをしたそうです。「早く大きくなれ。早く実を付けろ。実も大きくなれ」と話しかけたり、花や実を見たり、興味津々で育てたそうです。パッションフルーツをグ



パッションフルーツの花

リーンカーテンに選んだきっかけは「ひたちなか市で栽培している」という記事を見た事で、栽培の知識を持ち合わせていなかった中で、インターネットで調べたり、周りの人に話を聞いたりして栽培したそうです。「今年は葉もあまり茂らず、実も少なかったもので、苗を越冬させ、来年はもっと大きくし、実も利用者一人1コ食べられる位に育てたい」と話してくれました。

栽培は比較的楽で、消毒もいらなそうです。ただ花が咲いても自然にはなかなか受粉せず受粉作業をしたそうです。

グリーンカーテンにもなり、花も実も見えて楽しめ、熟した実は食べる事もできるパッションフルーツ。来年はぜひ、お試しあれ。

祝 城里町 敬老会・金婚式式典 おめでとうございます！

激動の時代をのりこえて



記念品を受ける萩谷さんご夫妻

平成24年9月9日（日）城里町敬老会・金婚式式典が、コミュニティセンター・ホールで、午前9時30分より盛大に開催されました。

城里町には、75歳以上の方が3591名いらっしゃいます。（7月31日現在）。またご結婚50年の金婚を迎えられ、式典に参加された方は14組おられます。今回初めて、常北地区、桂地区、七会地区のこれらの方々と一堂にお招きし、400名ほどの方が集われ、祝賀の式典が行われました。

式典のなかで阿久津藤男町長は「皆様方には戦前戦後の激動の時代をのりこえ、長年にわたり家族、社会の繁栄および町発展のため、ご尽力ご協力を賜わり、感謝いたします。また『国民の4人に1人が高齢者』といわれる現在、城里町でも28.3%の高



民謡と尺八



リズムカルにフラダンス

を図つてまいります」と挨拶されました。つづいて金婚者を代表して、萩谷幸則・みい夫妻に記念品と花束が町長より贈呈されました。

来賓祝辞、来賓紹介、県知事祝辞（代読）のあと、高年者クラブ連合会会長の横倉芳郎さんから、金婚者・招待者を代表して謝辞がありました。

休憩をはさんで、町文化協会によるアトラクション（歌謡曲・フラダンス・舞踊・民謡など）が披露され、皆さん楽しそうに観賞されていました。（金婚者13組の方々をご紹介します）

年齢率です。今年度中に、100歳以上となれる方は、19名おられます。こうした方々が家庭や地域でも安心して生活できるよう、高齢者福祉施策の充実

小瀧 守・登美子 夫妻
(常北・石塚)

夫婦で歩んできた50年。色々な事がありました、こうして金婚式を迎える事ができました。体を大切に残りの人生を楽しみます。



山あり谷あり共に歩んだ50年。健康で金婚式を迎える事ができ、感謝申し上げます。1日1日を大切に過ごしたいと思います。

宮本 八四郎・加代子 夫妻
(常北・石塚)

初心を忘れずに苦楽を共にした50年でした。家族、そして地域の皆様に支えられ金婚式を迎える事ができました。心より感謝申し上げます。

ト部 晃行・三七子 夫妻
(常北・石塚)



萩谷 幸則・みい 夫妻
(常北・那珂西)

多くの皆様に支えられ、金婚式を迎える事ができたことに感謝申し上げます。お互いに助け合い1日1日を大切に過ごしたいです。



一木 猛・紘子 夫妻
(常北・那珂西)

家族や周りの皆様に支えられて金婚式を迎える事ができ、感謝しております。これからも健康に心掛けて元気に過ごしたいと思います。



木原 俊英・美智子 夫妻
(常北・石塚)

金婚式を迎え、これからも夫婦2人で手をたずさえて、この人生を誠実に生きていきたい。



会場に集まった人々



檜山 年載・益江 夫妻
(桂・上坪)

家族、地域の皆様に支えられ、健康で結婚50年を迎える事が出来、感謝しております。今後は絆を大切に歩んで行きたいと思っております。



加藤 三郎・壽子 夫妻
(常北・石塚)

金婚式を共に元気で迎える事ができ、感謝、感激でいっぱいです。残された人生、地域の方達と楽しく過ごしたいと思っております。



加藤 勝利・玲子 夫妻
(桂・高久)

この喜びをそれぞれの両親はじめ家族に感謝し、そして地域の皆様に支えられありがとうございます。今後、大義規範を忘却不せず、人生を共生していく。



小山 卓臣・かの子 夫妻
(桂・北方)

孫の成長とともに50年。我がままな自分を支えてくれた女房、家族に感謝。健康第一、楽しんで農業、旅行を。地域のためにも。



杉山 三千雄・フサ 夫妻
(桂・栗)

職場や地域の人に支えられ、あつという間の50年間でした。これから1年でも長く、互いに元気で生活したいと思います。



蘭部 守・光子 夫妻
(七会・徳蔵)

結婚当初から、金婚式を目指し、頑張ってきた。その間大勢の方々の支えや助けを頂いた。又、子供や孫達の笑顔にも励まされた。余生も支え合い、自分らしく生きて行けたらと願っています。



池田 訓啓・澄江 夫妻
(桂・阿波山)

何とか金婚式を迎える事ができ感慨もひとしおです。これも妻の心使いのお陰と感謝しております。残りの人生もお互い思いやりの気持ちで大事にし、楽しい余生を送りたいと思っております。



まわりのまわり

地域のまつりを守って

平塚 正光さん(阿波山)

電話で取材をお願いしたところ多忙のなかを快く承諾していただきました。

平塚正光さんは、昭和25年4月生まれの現在62歳、ヒラツカ設備の代表として忙しい日々を送っています。

6人兄弟の末っ子として生まれ、高校卒業後平成9年12月までNTTに勤務され主に営業畑を歩いてきたそうです。

しかし、年老いた母親の面倒を看なければならず、転勤することが難しくなり、退職することになったそうです。



平塚 正光さん

元来、小さな作業小屋などは自分で建ててしまう程の器用さがあり、また、住んでいる街の将来を考え、平成10年6月に管工事業の会社を設立しました。人柄の

良さもあり順調に業績を伸ばしているようです。

また、旧桂村の時より青少年相談員として活躍され、合併後も会長として町の青少年の健全育成に尽力されました。そのほか永年、体育指導員としても地域スポーツの発展に貢献されました。

さらに、9年程前より生涯学習地区推進事業の一環として始めた地域のまつりである「阿波山区まつり」の第3回目から実行委員長に推され現在までずっと続けられています。また、3年前からは、町の行事の一つである「しろさとふるさと祭り」の実行委員長にも選ばれ、その役職を無事に全うしてきました。その間、会社の代表としての仕事とまつりのための雑用とで、想像以上に大変な日々を過ごされたのではないかと思います。

彼の持つ素晴らしい精神力と行動力がなければ祭りも早や頓挫してしまっ

ていたのではないのでしょうか。まつりのための申請書や許可証の作成、支援のお願い、消防や交通安全協会への協力依頼、当日の賞品等の購入や花火業者と実行委員の会議など次々と物事を片づけていく平塚さん。もちろん彼がそう出来るのは、家族の方々の協力と応援、特に奥さんの力が非常に大きく働いていると思います。何かそこまでさせているのですか？との問いに「地域から生まれたまつりを絶対絶やしたくない。誰かがやらなければ途絶えてしまう。それが、一番の心の支えです」と力強く語ってくれました。「まつりの後継者を育てるまでガンバル！」とも言っていました。

何とも逞しい、そして人間味あふれる好青年？平塚さんガンバレ！



阿波山地区まつり

つくしの四季 25

9月11日(火)・12日(水)に作業所の通所者10名と指導員7名で、潮来方面へ研修会に行きました。

晴天に恵まれ、初日はつくばエキスポセンターにいました。ここは、宇宙に関するたくさんさんの展示があり、中でも竜巻を人工的に作る装置を見て、竜巻が出来るまでの様子がよくわかりました。未来の車や台風の強風を体験できるコーナー、お土産コーナーには、宇宙食が売っており、キムチには驚かされました。最後に、館内にあるスペースシャトルの大きな模型の前で記念撮影をして潮来ホテルに向かいまし

た。
2日目は



鹿島神宮に行き、鹿と記念撮影をしました。鹿島アントラーズクラブハウスに向かう途中には、風力発電所の風車が見えて思った以上に大きくて圧倒されました。最後は、大洗アウトレットに行きました。昼食後はそれぞれに分かれてお店を見て回りました。周りから見れば心配されることもありますが、ヘルパーさんや作業所の方々と行ける事が心強くてとても安心します。外に出るだけでも気持ちがいいです。これから多くの方から力を借りてどんどん世界を広げていきたいです。(加藤 直)



遠野駅周辺のひまわり

8月29日(水)午前7時、ボランティア連絡協議会のメンバー68名を乗せたバス(2台)が東北研修に出発しました。行き先は東松山市と石巻市で、昨年の大震災で大きな被害を受けたところからです。本格的なボランティア活動は出来なくても、被災地への観光や物産品の購入も、被災地の復興につながるものとして歓迎されるということで、計画された復興支援の旅です。観光物産館で昼食、たくさん

東北を旅して応援しよう!!

ボランティア連絡協議会

津波で線路がなくなっているJR仙石線の遠野駅周辺には、岩瀬高校(桜川市)の生徒が植えたひまわり



がれきの山(石巻)

が、見事に花開いていました。又、佐和高校(ひたちなか市)美術部の生徒はしばざくらを植えました。花は咲き終わっていましたが、緑の葉がしっかりと残っており、来年も見事な花を咲かせてくれることでしょう。壊れたままの家や、土台だけの家、又瓦礫の山を見ながら石巻市に着きました。ここでも行き場のない瓦礫

の山があちこちにあり、その悲惨な光景に声も出ません。1年数ヶ月たった今も、たくさんさんの爪跡が残っています。「今、私たちにできることは…」を考えさせられた研修でした。

ボラ連会長 寺門 茂雄

乗車時間が長いのがネックだが、68名の参加で日帰りでも松島まで旅ができるのは、道路網の発達の賜物。道路の左右で景色が違う場所を案内していただき、海側は基礎のみで更地。山側は稲が実のり緑が光る里山の風景。実際に自分で見るとこんなにも違うのかと愕然とする。津波の破壊力は凄まじいものと改めて感じる。工場の一角に廃車となった車の山を見たが原型をとどめない壊れ方を見ると驚くばかりである。物産館で買物。店員が驚く程の購買欲。「東北を旅(買物)して応援しよう!」という企画は復興の一役を担ったと思っている。

何故強い 孫根グラウンドゴルフチーム

年に2回開かれる高ク連主催のグラウンドゴルフ大会で、ここ数年孫根と磯野チームが良きライバルになっていきます。最近6大会(8~13回大会)では、孫根チーム1位4回、2位2回、磯野チーム1位1回、2位5回です。(第11回大会で孫根、磯野同点2位)そこで今回はまず孫根チーム好成績の背景を、部長の加藤木英雄さんに聞いてみました。

★孫根チームの強さはどこにあるのでしょうか。

週1回の練習試合を全員で楽しみ、年3回の孫根大会で成果を確認する。

●別に特別な事はしていません。ただ、4年前から週1回桂運動公園で練習をしており、その日には部員16名のほとんどが参加しています。また、練習成果を部員同士で競う孫根大会を年に3回開いております。部会費を集め、そのお金を賞品代とし、1位から順次賞品に差をつけています。大会ではみんな真剣になり

ます。当然、参加賞、ブービー賞もあり、皆で楽しむ雰囲気があります。また、大会とは別に月1回個人別にスコアを記録し自己評価をしております。あえて言えば、週1回の練習とこの大会が連動して、部員の実力を上げる原動力になっていると言えるかもしれません。しかし、町の大会の成績は、実力ばかりではなくラッキーな面もあったと思います。

★最後に、部員小林ふじのさんの「グラウンドゴルフは私の生きがいですから…」という言葉に孫根チームの底力を感じた取材でした。

次回は磯野チームを取材する予定です。



右はじが加藤木部長



敬老の日

いばらき子どもヘルパー

那珂西地区の高齢者を訪問

高齢者のためのボランティア活動を行う「子どもヘルパー」16名が敬老の日（9月17日）に昼間一人暮らしの高齢者18名を手紙とプレゼントを持って訪問しました。当日の朝、子ども達は思いを込めて、訪問する高齢者に宛てた手紙を書き、プレゼントを袋に詰めました。指導協力にあたったのは、日頃子育て支援を行なっているボランティアグループ2010会及び地区民生委員です。会代表の住谷里子さんは子ども達に、心のこもった手紙の書き方、訪問時の挨拶の仕方などを楽しい雰囲気の中で指導し

ていました。プレゼントの一つが冬に向かっている靴下であったこともあり、手紙には、寒さに向かっているのを心遣いを表したもののや、足腰は最近大丈夫ですか、と以前に会った時の相手の体を気遣ったものなど、子供の優しさを感じられるものでした。

訪問は、台風の影響で空模様が変わらないなか、5班に別れ、各班に3、4名の子どもヘルパーに2010会の会員と民生委員が2名

ないし3名同行し行われました。訪問を受けた高齢者は、子供たちの突然の訪問に最初は驚きましたが敬老の日のお祝いの言葉を聞き、手紙とプレゼントを渡されると、満面笑顔で喜びを全体で表していました。訪問を受け後、家にあったお菓子を持ってきて子ども達にお礼がしたい、と那珂西三区公民館を訪れた高齢者の方

もいました。

子どもヘルパーは小学高学年で構成され、高齢者との交流活動をいろいろ行な



っています。今回、中学一年生になった池田彩乃さんも参加しました。活動を通じてプレゼントや手紙を交換するまでに深まった高齢者との絆を今後も持ち続けていきたい、という思いからだと言います。

高齢者と子どもの絆を深めることを目的に昨年から始まった当事業、周りの協力を得ながら石塚小那珂西地区の子ども達と高齢者との間に育ち始めていると言えそうです。

「いばらき子どもヘルパー派遣事業」小学4～6年生を対象に、高齢者との交流を通して地域の絆づくりを推進することを目的とした事業。現在、那珂西地区がモデル地区に指定されている。

この日の活動の様子は、NHKテレビのニュースで放映されました。

感謝とお願い

今年度の社協会費の納入をいただき、ありがとうございます。

社協では、ご賛同いただきました皆様からの会費をもとに、地域福祉事業の推進を行っております。

これからも町民の皆様の福祉活動への参加をいただき「誰もが安心して暮らせる福祉の街づくり」を実践してまいりますので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

また、10月1日より全国一斉に赤い羽根共同募金運動が始まりました。

各小中学校の福祉教育、ボランティア活動、社協広報活動、高齢者支援などの町の福祉事業に役立てられ

ています。

皆様ひとりひとりの思いやりが、町の福祉を支えています。ご協力をお願いします。

赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

介護予防講演会 開催について

介護保険制度が施行されて10年あまりが過ぎ、多くの方が介護予防に関心を持つようになりました。

介護予防事業は、地域で関わるが必要とされています。

今回の介護予防講演会には、茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生をお迎えし基調講演を頂きます。

また第2部では介護予防劇場「サロンにようこそ！元気になるぜえ！」と題してボランティアによる寸劇が行なわれます。

期日 平成24年11月4日

(日) 12時30分より

会場 コミュニティセンター

城里

お誘いあわせの上、皆さんでお越し下さい。



手話を学ぶ

④ 感情の表わし方

前回までの手話表現は、覚えられたでしょうか？今回は、自分の感情や、意志を表わす手話を紹介します。

「好き」

右手の親指と人差し指を伸ばしてのどにあて、指を閉じて下げる。



横から見たとき



ゆっくりと下げると「とても好き」また、同じ動作を2回繰り返すと「好み」になります。
(希望・ほしい・欲しい)の手話にも使われます。

「笑う」

両手の親指とほかの指を軽く曲げ、口元で広げたり狭めたりする。



「怒る」

両手の指を軽く曲げて胸にあて、同時に開きながら上げる。



横から見たとき

ゆっくりと動かすと「とても怒っている」になる。



「楽しい」

両手を折り曲げ、親指以外の指の指先を胸に向け、交互に上下に動かす。



横から見たとき

「楽しかったです」とお礼の手話にもなる。

(うれしい・喜び・喜ぶ)の手話にも使われます。

「嫌い」①

親指と人差し指をつけてあごの下におき、パッと開きながら下げる。



横から見たとき

(嫌)を表わす手話にも使われます。

「嫌い」②

右手の親指と人差し指を曲げて、胸に2回あてる。



不満



右手を開き、いったん胸にあててから、再び前に出すと「不満」になる。

(嫌)を表わす手話にも使われます。

※「嫌」の手話表現は2種類ありますから、どちらを使っても構いません。

地域福祉活動計画が出来ました

地域福祉活動計画は、今後城里町の地域福祉をどのように進めていくかを地域のみんなで考え策定するものです。

この計画は、地域の福祉を目標とした民間の活動・行動計画で「誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくり」の実現に向けて、城里町社協の取組みを具体的に示しており、平成24年度から平成27年度までの4年間で第1期活動期間とし、最終年度に見直しを行うこととします。

城里町社協では「地域福祉活動計画」をもとに、地域住民と一緒に、地域の繋がりを実感できるような環境の整備に取組み、新しい地域づくりを進めていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

小松寺(上入野)

しるさと14
杉木立の中、足にやさしい土の感触を感じながら参道を登っていくと、唐門があります。唐門は昭和47年に町指定建造物になりました。広い境内には、水戸光圀公ゆかりのしだれ桜が数本あり、槐と白檀の古木があります。小松寺は天平17年に名僧行基が建立し、現在で349年になります。

境内をすぎ裏手の白雲山に登ると中腹に平重盛の墓、宝篋印塔があり、県指定史跡文化財となっています。

本堂の右に観音堂があり、国指定重要文化財の浮彫如意輪観音像が安置されています。毎年1月1日にご開帳となります。春はしだれ桜、秋は紅葉が見事です。小松寺周辺は自然環境保全地域になっています。



唐門

わが町のさわやか元気さん ②7

片岡フキ子さん

86歳
下赤沢

フキ子さんは2人のお子さんがあり、長男ご夫婦は長屋門のある母屋に住み、娘さんも嫁がれました。ご主人を亡くされ別棟に一人で暮らしています。

20才で結婚して慣れない農作業に苦労しましたが努力をしてテラーも使える様になりました。現在の野菜づくりをしています。地区の婦人会長もしました。車の免許も取得。以前は「主人や子

河原はつねさん

86歳
上赤沢

はつねさんのお住まいは緑の樹木に囲まれた、広い敷地の中に有ります。

4月まではバイクで外出をして居ましたが、事故を心配しての家族の配慮もあり乗る事を止めたそうです。健康状態は良好、血液検査の結果も異常なしです。

丈夫な歯は28本、固い梅

供達を送迎していましたが、現在はシルバーカーに乗っています」と笑顔で話されました。

趣味のちぎり絵は80才でやめたそうですが、作品の人形・動物・風景のちぎり絵は見事なものでした。

楽しみは源太の里クラブの人達と下赤沢集落センターでリハビリ体操をすること。心おきなく話せる友人がいる事です。知的で明るい86才と思えぬフキ子さんでした。何時までも輝いて長生きをしてください。

今は鶏足山サロンのリハビリ体操が楽しみとの事です。これからも健康にお気を付けて、生涯農業を目指して下さい。



会員募集

シルバー人材センターでは、会員の募集をしています。

- ①草取が出来る方
- ②集草作業や片付が出来る方
- ③農作業が出来る方
- ④剪定作業が出来る方

等です。
加入要件は、城里町在住のおおむね60才以上の心身共に健康な方です。

申込書は、事務局にありますので、証明写真2枚と年会費1,000円をご用意のうえお越し下さい。

ご不明の点は、お気軽にご連絡下さい。

連絡先

城里町シルバー人材センター

(城里社協内)

(029-288-7013)

訂正とお詫び

30号のわが町のさわやか元気さんの記事の中で、加藤木甫男さんの役職について、農協の監事を理事と表記してしまいました。お詫びを申し上げます。訂正をいたします。

目次

- 一石三鳥！
バシオンフルーツのグリーンカーテン……1
- 祝 城里町敬老会・金婚式式典 2・3
きらっと生きる
- つくしの四季⑤
東北を旅して応援しよう!!
ボランティア連絡協議会……5
- 何故強い
孫根グラウンドゴルフチーム
敬老の日
いばらき子どもヘルパー 那珂西地区
の高齢者を訪問……6
- 感謝とお願い
介護予防講演会開催について
手話を学ぶ④感情の表わし方
地域福祉活動計画が出来ました
しろさと④「小松寺」
わが町のさわやか元気さん②⑦……8
- 訂正とお詫び
シルバー人材センター会員募集
目次
編集後記

編集後記

確か前号の編集後記に「この寒さはいつまで？」と書いた、その2〜3日後に暑さがやってきたことを覚えてる。そして今、「この暑さはいつまで？」と書いている。おそらくまたこの記事を書いた数日後には、秋の気配を感じられる日が訪れていることだろう。日中は少し寒くなる日もあるだろうが、朝夕の冷えた空気を肌を感じながら「秋」を迎える準備をしていこう。

(わ)